

意匠権侵害物品に係る輸入差止状況

○意匠権について

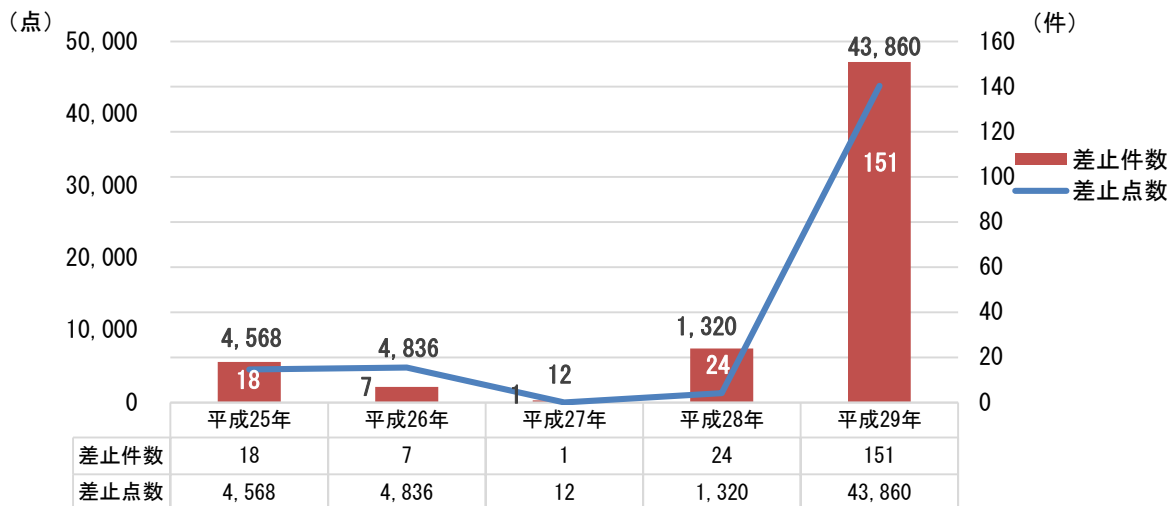
物品の意匠（デザイン）を対象とした権利です。「意匠」とは、「物品の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合であって、視覚を通じて美感を起こさせるもの」（意匠法第 2 条第 1 項）をいいます。保護期間は特許庁への登録の日から 20 年間です。

意匠権者は、原則として、登録された意匠及びこれに類似する意匠に係る物品を業として独占して製造、譲渡、輸出または輸入等することができる権利を持ちます。よって他人が意匠権者の許諾なく、登録意匠又はこれに類似する意匠に係る物品を業として輸入する行為等は意匠権の侵害となります。

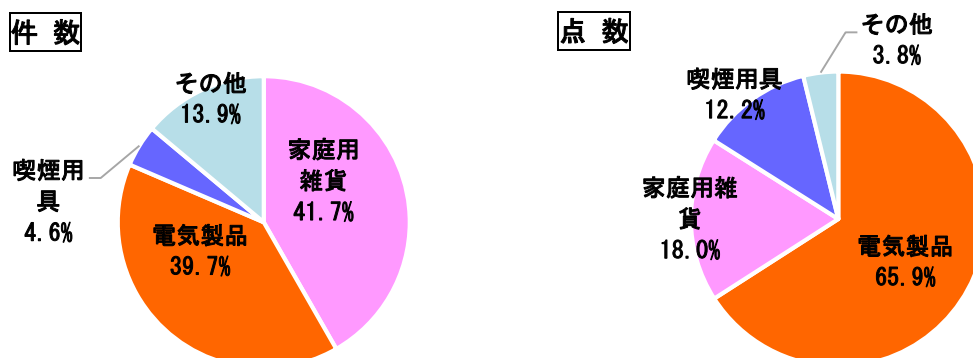
○意匠権侵害物品の輸入差止状況について

平成 29 年の意匠権侵害物品に係る輸入差止件数は過去最高の 151 件（注）となりました。輸入差止点数は 43,860 点であり、そのうち電気製品、家庭用雑貨及び喫煙用具といった品目が大きな割合を占めました。（注：比較可能なデータのある平成 14 年以来）

【意匠権侵害物品に係る輸入差止件数・点数】



【意匠権侵害物品に係る品目別構成比（平成 29 年）】

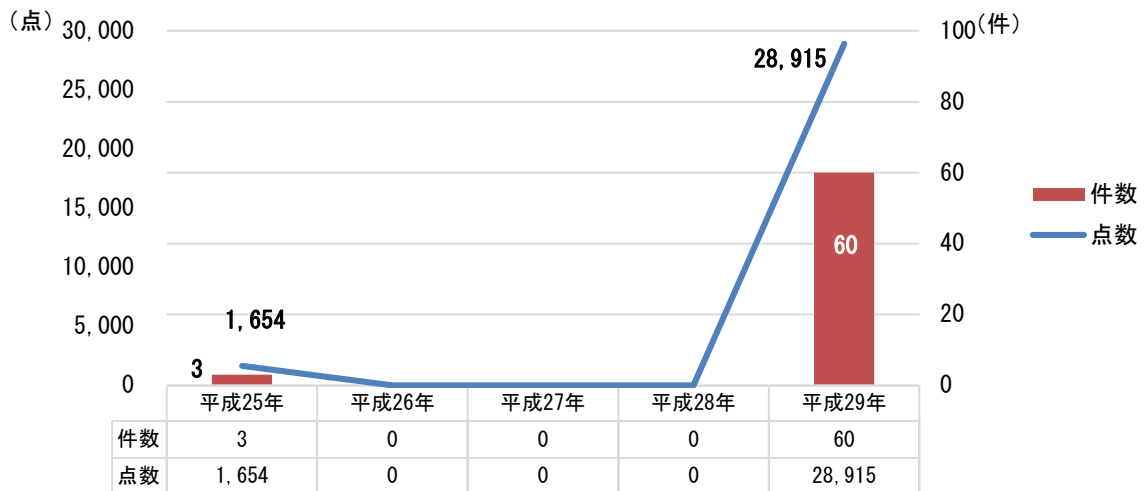


○差止めの多かった意匠権侵害物品

電気製品

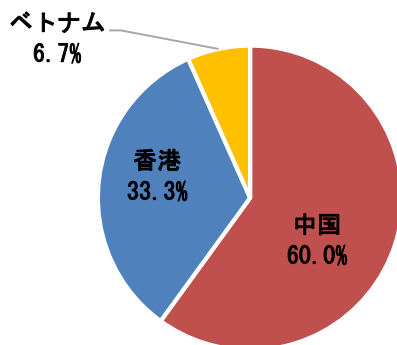
意匠権を侵害する電気製品の輸入差止めは平成 25 年以来となりました。平成 29 年では、電気製品の品目ではイヤホンが 9 割を占めています。

【意匠権を侵害する電気製品に係る輸入差止件数・点数】

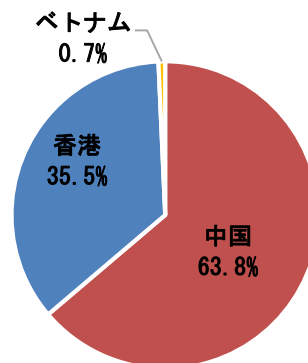


【電気製品に係る仕出国（地域）別構成比（平成 29 年）】

件数

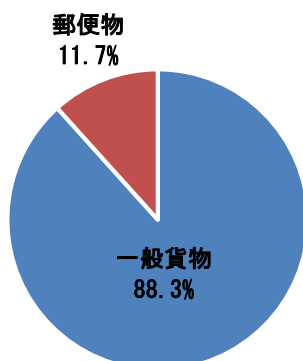


点数

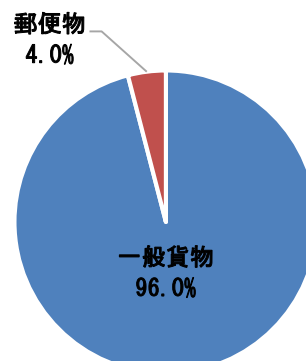


【電気製品に係る輸送形態別構成比（平成 29 年）】

件数



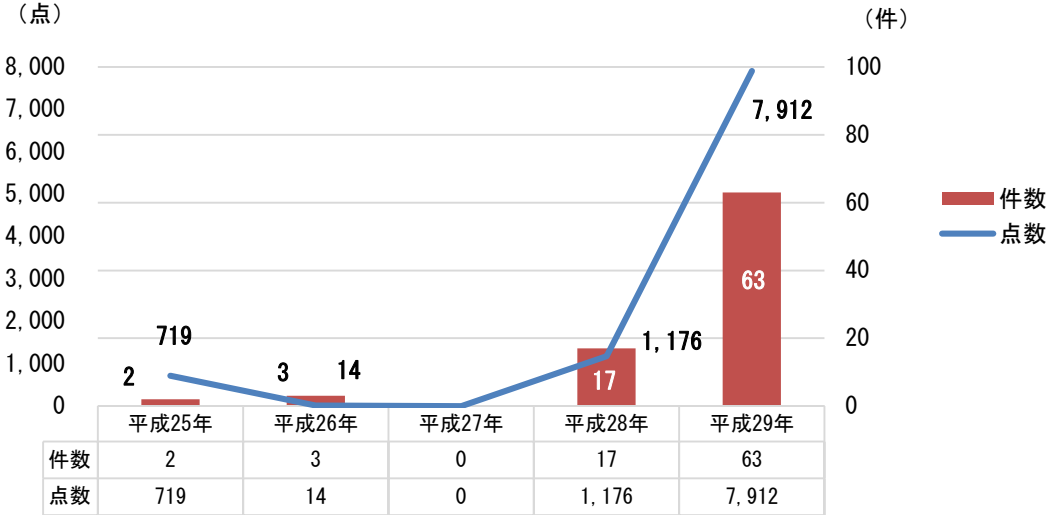
点数



家庭用雑貨

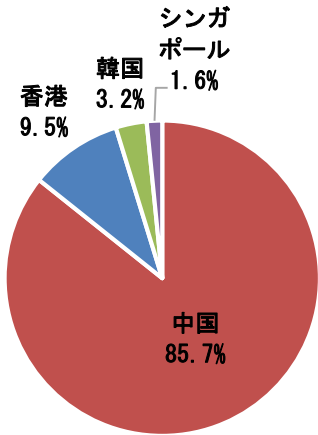
意匠権を侵害する家庭用雑貨については、平成 25 年以降は平成 27 年を除き、毎年差し止めています。平成 29 年では、家庭用雑貨の品目では美容用ローラーが 9 割を占めています。

【意匠権を侵害する家庭用雑貨に係る輸入差止件数・点数】

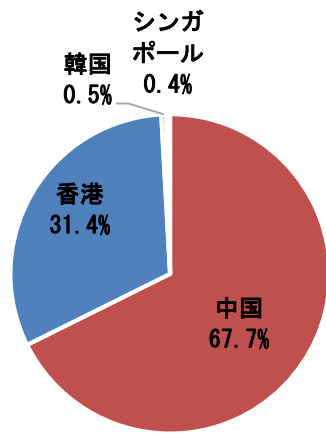


【家庭用雑貨に係る仕出国(地域)別構成比(平成 29 年)】

件数

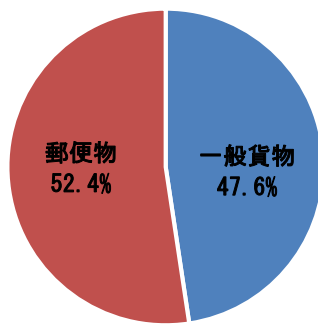


点数

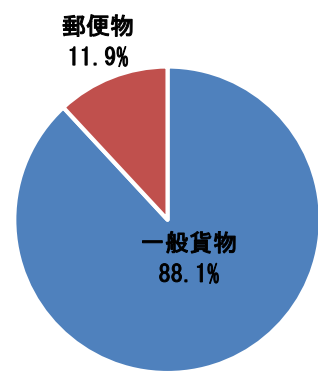


【家庭用雑貨に係る輸送形態別構成比(平成 29 年)】

件数



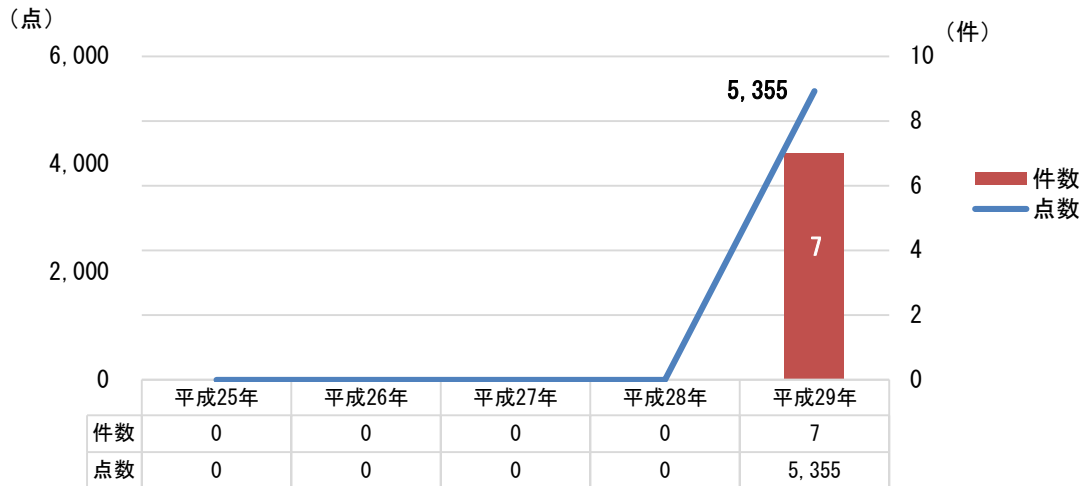
点数



喫煙用具

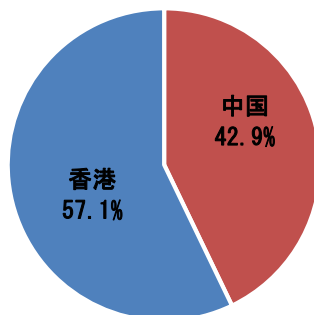
意匠権を侵害する喫煙用具（電子タバコの付属品）については、今回大阪税関で初めて差し止めた物品であり、輸送形態は全て一般貨物です。

【意匠権を侵害する喫煙用具に係る輸入差止件数・点数】

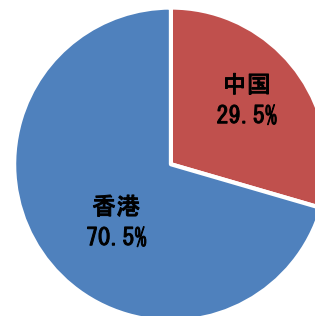


【喫煙用具に係る仕出国（地域）別構成比（平成29年）】

件数

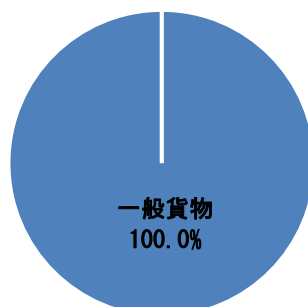


点数

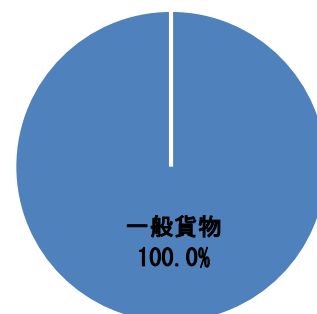


【喫煙用具に係る輸送形態別構成比（平成29年）】

件数



点数

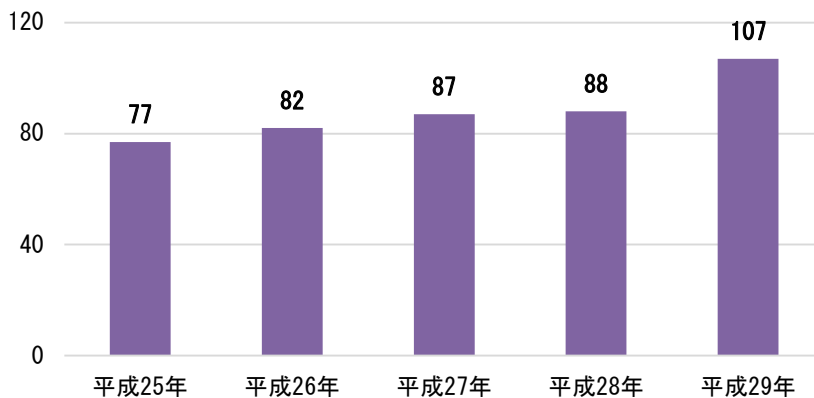


○意匠権の輸入差止申立てについて

意匠権に係る輸入差止申立て制度の導入は平成15年であり、平成29年末日において有効な申立ては前年比約1.2倍の107件となり、全ての申立て権利の中でも、最も大きい伸び率となりました。

また、平成29年に新たに輸入差止申立てのあった権利者の差止対象物品が増加している事例もあることから、輸入差止申立ては侵害品の国内市場への流入を防ぐための有効な手段の一つとして考えております。

【意匠権に係る輸入差止申立て件数】



【輸入差止申立て件数】

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	前年比
特許権	21	20	21	17	17	100.0%
意匠権	77	82	87	88	107	121.6%
商標権	247	275	318	348	368	105.7%
著作権	96	96	96	95	99	104.2%
その他の権利	324	270	212	146	96	65.8%
合計	764	742	733	693	687	99.4%

注1：各年12月31日時点において有効な輸入差止申立て件数を示しています。

注2：1件の申立てにつき複数の知的財産に係るものがあるため、知的財産ごとの件数の合計と合計欄の件数は一致しません。

【問合せ先】

大阪税関業務部知的財産調査官
TEL：06-6576-3318（直通）